

## 気象が道路に出会う場所

米国のインディアナポリスで開催された陸上交通気象と道路雪氷対策に関する国際会議に出席した帰り、アイオワ大学を訪問する機会を得た。目的は我々同様にこの会議に出席したニクソン教授との情報交換であったが、アイオワ州は前週まで大雨や竜巻、洪水に見舞われ、アイオワ大学の主要な施設も水没するなど、大変な被害に遭っていた。

市内はやや落ち着きを取り戻し、復旧作業が進められていたが、水没した道路や竜巻に襲われた建物などもまだかなり残っていた。アイオワ大学の水理学研究所や市役所の方のお話を聞かせていただいたが、今回の洪水は500年～1000年という規模の再現確率の雨によるものだったようだ。アイオワ州は、米国でも有数の穀倉地帯であり、とうもろこしや大豆、バイオ燃料の一大生産地である。ただでさえ、世界的に穀物が高騰している折、これでまた価格の上昇が懸念されるようだ。また、この地域は、I-80というアメリカ大陸を東西に横断するインターステート(州際高速道路)が通るエリアでもある。広い国土を有する米国にとって、スムーズな物資の輸送は国力の源である。物流面からも、この地域が極めて重要な位置づけにあることは容易に想像できる。

2004年に米国科学アカデミーは“Where The Weather Meets The Road (邦訳：気象が道路に出会う場所)”というレポートを刊行し、陸上交通気象の分野の研究促進が国家レベルで必要であると提言した。この提言をふまえ、2005年に成立した“米国陸上交通長期法 SAFETEA-LU(2005)”では、“陸上交通気象 Surface Transportation Weather”の研究の重要性を法律中でもきちんと位置づけ、米国連邦道路庁(FHWA)に道路気象を専門に扱う部署を設け、各種の道路気象研究プロジェクトを進めることになった。

今回の会議は、米国が陸上交通気象の重要性に着目し、国を挙げて研究に取り組むようになってから初めて開催した国際会議である。会議の報告は、別途紙面をさいて詳細に行うことになるであろうが、図らずも会議の帰途に“気象が道路に出会う場所”を直接この目で見ることになってしまった。しかも、そこは世界の経済・米国の経済が密接に関わる大事なエリアである。

陸上交通気象の研究は、これから10年ほどの間に非常にダイナミックに展開するものと思われる。陸上交通が気象の影響を受ける程度では、我が国も米国に負けず劣らず大きい。当所も国際的な流れに遅れることなく、いやむしろ世界をリードするくらいの心構えでこの分野の研究に取り組んでいきたいものである。

最後に、今回の災害で家族や知人を亡くされた方々、大きな被害を受けた方々に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地域の復興が一日も早く進むことを祈る次第である。

(雪氷チーム上席・地域景観ユニットリーダー 加治屋 安彦)

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。